

レジメンcode:	C16-33
適応がん種:	胃癌
レジメン名:	Zolbetuximab+カペシタビン
間隔:	3週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	ビロイ	600	mg/m ²	点滴[*1]	d1
CAP	カペシタビン(セローダ)	[*2]	mg/m ²	内服(朝夕食後)	d1夕～d15朝

*臨床試験では、オキサリプラチンの投与は **最大8回まで** とされ、その後 C16-33:Zolbetuximab+カペシタビンを疾患進行又は許容できない毒性まで継続した

***オランザピンが治療前日から服用(糖尿病患者は除く)**となるため、あらかじめ処方が必要です

*入院化療時、悪心嘔吐出現時の メトクロプラミド注 1A の医師指示が必要です

[内服]

day0～4(5日間)

- 1) オランザピン 5 mg/日
-
- 内服 夕食後 **ビロイ投与前日から服用**

*** 糖尿病禁忌**

day2～4

- 1) デカドロン 8 mg/日
-
- 内服 朝食後

[注射]

day1【ケモセーフ使用】

- | | | | |
|----------|--------|-----|-----|
| 1) アロカリス | 235mg | 1 V | |
| ファモチジン | 20mg | 1 A | |
| デキサート | 6.6mg | 1 V | |
| デキサート | 3.3mg | 1 A | |
| パロノセトロン | 0.75mg | 1 V | |
| ポララミン | 5mg | 1 A | |
| 生食 | 50ml | 1 本 | |
| | 主管① | 点滴 | 30分 |
-
- | | | | |
|-------|------|-----|------|
| 2) 生食 | 50ml | 1 本 | |
| | 主管② | 点滴 | 15 分 |
-
- | | | | |
|-------|-------|-----|---------------------------|
| 3) 生食 | 100ml | 1 本 | |
| | ▶側管① | 点滴 | ビロイを中断した場合のルートキープ用 |
-
- | | | | |
|--------|-------|-----------------------|-----------------|
| 4) ビロイ | | 600 mg/m ² | 1Vあたり注射用水5mlで溶解 |
| 注射用水 | 100ml | 1 本 | 12時間以内に投与終了すること |
| 生食 | 250ml | 1 本 | 12時間を超えた場合は残液破棄 |
| | | | インラインフィルター必須 |
| | 主管③ | 点滴 | 投与速度は別表[*1]参照 |

5) 生食

50ml

1 本

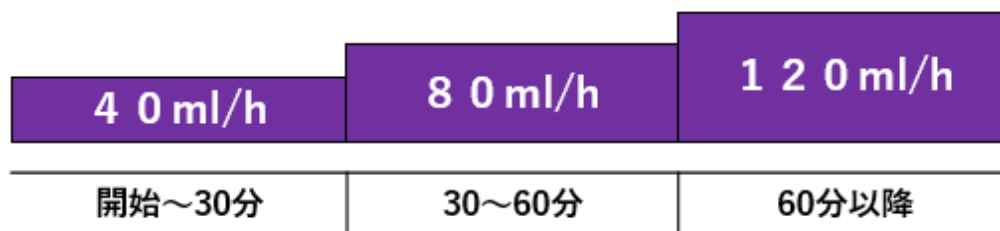
フラッシュ

〈所要時間 約4時間30分〉

[*1]

悪心・嘔吐に対する投与速度のマネジメント

悪心・嘔吐 レベル1以下

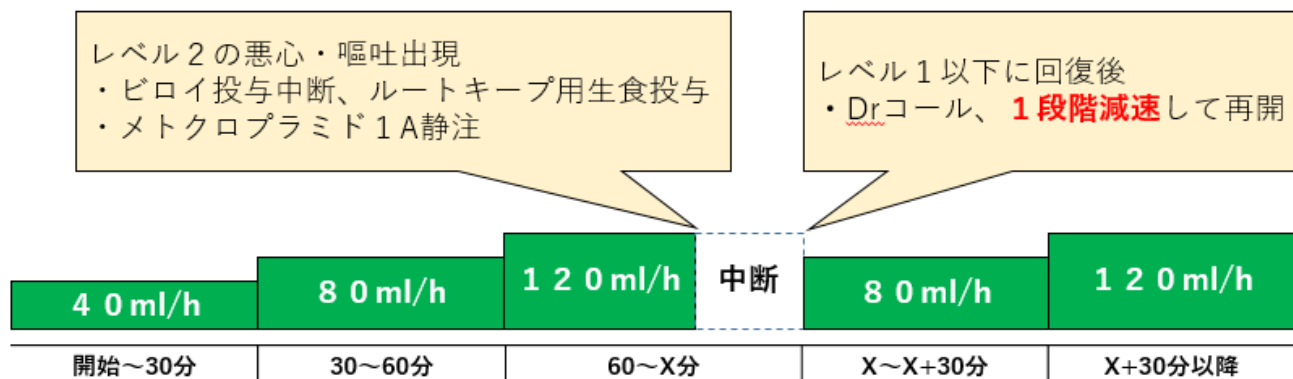


* 悪心、嘔吐 レベル2出現時

①ピロイの投与を中断。ルートキープ用の生食を投与しメトクロプラミド1A 静注。

②レベル1以下に回復後、医師へ再開の指示を確認し、**症状出現の1段階前の速度から再開**する。

悪心・嘔吐 レベル2出現時 (中断例)



	レベル1	レベル2
悪心	吐き気はあるけど食べられそう	吐き気があって食べられない
嘔吐	なし	あり

大切なのは患者さんの感覚

「中断希望」や「症状でつらい状態」→レベル2と判断

day1夕～day15朝

1) カペシタビン(ゼロダ)

[*2] mg/m²

内服 朝夕食後

[*2]

体表面積	投与量
1. 36m ² 未満	1,200mg(4錠)/回 【2,400mg(8錠)/日】
1. 36m ² ～1. 66m ² 未満	1,500mg(5錠)/回 【3,000mg(10錠)/日】
1. 66m ² ～1. 96m ² 未満	1,800mg(6錠)/回 【3,600mg(12錠)/日】
1. 96m ² 以上	2,100mg(7錠)/回 【4,200mg(14錠)/日】

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【(GLOW試験) Nat Med.2023;29(8):2133–2141 (PMID:37524953)】

【適応】

CLDN18.2陽性かつHER2陰性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

【ピロイ】

*希釈後、室温で12時間以内に投与を完了すること。また2～8℃で24時間以内に使用すること。
12時間を超えた場合は、残液を破棄すること。

*インラインフィルター(0.2μm)を使用する。